

1 文の構成要素

§ 1 品詞

★ 単語はいずれかの品詞に属する。品詞は単語の種類である。…詞という名前がついていても、品詞とは限らない。分詞・不定詞・動名詞はそれぞれ動詞の分詞形、不定詞形、動名詞形で、現在形などと同じ動詞の一つの形である。

名詞や動詞、形容詞などは日本語と英語のどちらにもある品詞だが形容動詞・連体詞などは日本語だけにあり、前置詞は英語にだけある品詞である。名前が同じでもその働きは異なる場合があるので注意しなければならない。あくまでも英語での働きから考える。

英語の品詞は長い間 8 品詞に分類されていたが、現代英文法は冠詞と助動詞を独立した一品詞とみなし 10 品詞に分類しているのでそれに従う。

1 名詞

- ◆主語・目的語・補語になることができる。つまり 5 文型の **S**, **O**, **C** になれるので、文の骨格を作っている品詞。
- ◆普通名詞・物質名詞・抽象名詞・集合名詞・固有名詞の 5 種類に分かれる。
- ◆単数形と複数形がある。
- ◆**book, coffee, love, family, Lincoln, ...**

2 代名詞

- ◆単なる名詞の代用品ではない。日本語では名詞の中に含まれるが、英語では一品詞として独立している。それだけ重要な役目を担っている。
- ◆人称代名詞・再帰代名詞・指示代名詞・疑問代名詞・不定代名詞・関係代名詞などがある。
- ◆主格・所有格・目的格・独立所有格がある。
- ◆**he, it, myself, this who, ...**

3 形容詞

- ◆名詞・代名詞を修飾し、また補語 **C** になる。
- ◆限定用法と叙述用法の 2 つの使い方がある。
- ◆数詞・指示形容詞・疑問形容詞・不定形容詞・関係形容詞がある。
- ◆原級・比較級・最上級がある。
- ◆**good, cold, that, what, ...**

4 冠詞

- ◆定冠詞と不定冠詞がある。
- ◆**a, an, the**

5 動詞

- ◆そのままでは5文型の**V**になるが、動名詞・分詞・不定詞の形をとると、名詞・形容詞・副詞のような働きをする。
- ◆原形・現在形・過去形・現在分詞形・過去分詞形がある。
- ◆**go, finish, sleep, laugh, wash, ...**

6 助動詞

- ◆動詞の前にきて動詞を助ける語。可能・義務といった意味を付け加えるだけでなく、時制・法までを支配する強力な助っ人である。
- ◆**can, may, must, should, will, ...**

7 副詞

- ◆動詞・形容詞・副詞・文全体などにかかり、意味をそえる語である。
- ◆**slowly, always, very, seldom, fortunately, ...**

8 接続詞

- ◆語と語・句と句・節と節をつなぐ語である。
- ◆等位接続詞と従属接続詞とがある。
- ◆**and, but, or, that, when, although, ...**

9 前置詞

- ◆その名の通り、名詞・代名詞の前に置く語である。前置詞というと短い語というイメージがあるが、**beneath** や **through** のように長めのもあるので注意すること。
- ◆**in, on, for, from, under, along, ...**

10 間投詞

- ◆話し手の感情を表す。
- ◆**ah, oh, ouch, well, hello, ...**

§ 2 文構成の要素(Elements of sentence)

- ★ 文は大きく主部と述部に分けられる。文を作っている語句は、その働きによって主語・動詞・目的語・補語の4つの要素とその修飾語に分かれる。

1 主部と述部

- ◆文は主部と述部に分けられる。「～は」や「～が」にあたる部分を主部といい、主部の中心部分が主語である。厳密には(代)名詞だけであるが、冠詞や所有形容詞を含めて主語としてよい。句や節が主語になることもある。
- ◆述部の中心部分は述語動詞(ふつうは単に動詞と呼んでいる)である。現在形・過去形のように一語の場合もあれば、進行形・受身・完了形のように数語の場合もある。

Practice makes perfect. ([ことわざ] 習うより慣れよ。)

主 部 述 部

All play and no play make Jack a dull boy. ([ことわざ] よく学びよく遊べ。)

主 語 動 詞

The people who watch a sporting event without taking part are called spectators.

(スポーツ競技に参加せずに観戦する人は「観客」と呼ばれる。) (センター試験)

- ☐ この文で主部は **The people who watch a sporting event without taking part** で、主語は **(The) people** である。述部は **are called spectators** で、述語(動詞)は **are called** である。

2 主語

- ◆主部の中心をなすもので、主語になれるのは名詞・代名詞および名詞相当語句(動名詞・不定詞・that 節など)。

A man had a fine goose. (ある男がきれいなガチョウを持っていた。)

3 動詞

- ◆主語の動作や状態を表す語。
- ◆動詞単独の場合と助動詞+動詞の場合がある*。
- ◆自動詞と他動詞の種類によって、第1文型から第5文型までの5文型を作る。

She was a beautiful goose. (それは美しいガチョウだった。)

注 * 最長は未来完了進行受動態の <will have been being + p.p.> の形。なんと助動詞が4つ使われている。

4 目的語

- ◆他動詞のあとにくる。直接目的語 (**Direct Object**) と間接目的語 (**Indirect Object**) とがある。「～を」「～に」にあたる部分。目的語になれるのは名詞・代名詞および名詞相当語句である。

Every day she gave **the man a gift** of an egg.
(毎日ガチョウは男に卵の贈り物をした。)

〔注〕 **the man** は間接目的語, **a gift** は直接目的語である。

5 補語

- ◆述語動詞を補って、主語や目的語の状態を述べる。主格補語と目的格補語とがある。
- ◆補語になれるのは、名詞・代名詞・形容詞およびそれに相当する語句や節がある。

These eggs were **special**. (これらの卵は特別なものであった。)

6 修飾語

- ◆ **1** ~ **4** を修飾するもの。英文から修飾語を取り除いても文が成立する場合が多い。

But the goose gave only one golden egg a day.
(しかし、そのガチョウは一日に一個しか金の卵を産まなかった。)

§ 3 句と節(Phrases & Clauses)

- ★ 句と節を分類すると次のようになる。
それぞれ、名詞句・形容詞句・副詞句，名詞節・形容詞節・副詞節に分けられる。

1 句と節の表

種 類	句 と 節	
	2つ以上の語が集まって一つの品詞の働きをするもの。	
	<S+V>の関係を含まない。	<S+V>の関係を含む。
名 詞	不定詞の名詞的用法 動名詞句 疑問詞 + to 不定詞 前置詞 + 名詞 (前置詞句)	◆ that 節 ◆ 関係代名詞 what 節 ◆ if 節・間接疑問文
形容詞	不定詞の形容詞的用法 前置詞 + 名詞 (前置詞句) 分詞句	◆ 関係代名詞 関係副詞
副 詞	不定詞の副詞的用法 前置詞 + 名詞 (前置詞句) 分詞構文	◆ when ・ after 節など ◆ if ・ though 節など 複合関係詞節

2 名詞句と名詞節...主語・目的語・補語になれる。

◆名詞句

Alfred Nobel *wanted to make nitroglycerin safe.*

(アルフレッド・ノーベルはニトログリセリンを安全なものにしたかった。)

☞ **to make nitroglycerin safe** (不定詞の名詞的用法) は **wanted** の目的語。

◆名詞節

Many people said **he was a bad person** because he invented instructive weapons.

☞ **he was a bad person** 以下は **said** の目的語節。

3 形容詞句と形容詞節...名詞を修飾する。補語になる。

◆形容詞句

Finally, in 1983, Alfred invented *a way to make it safer.*

(1983年, ついにアルフレッドはそれを安全にする方法を発明した。)

☞ **to make it safer** (不定詞の形容詞的用法) は **a way** を修飾している。

◆形容詞節

He died eight years later, *on the same day Emily died.*

(彼[イマニュエル]は8年後, エミリーが死んだのと同じ日に死んだ。)

☞ **Emily died** は **the same day** を修飾している関係副詞節。

4 副詞句と副詞節...動詞・形容詞・副詞・文全体を修飾する。

◆副詞句

Then he *returned to Russia to work with his father and his brothers.*

(それから彼は父や兄弟といっしょに働くためにロシアに戻った。)

〔注〕 **to Russia** と **to work** (不定詞の副詞的用法) は **returned** にかかる副詞句。
with his father and his brothers は **work** にかかる副詞句。

◆副詞節

Many people said he was a bad person **because he invented destructive weapons.**

(ノーベルは破壊兵器を発明したので彼を悪者だという人が多かった。)

〔注〕 **because he invented destructive weapons** は **was** を修飾する副詞節。

次の文はさまざまな句・節からなっている。

A But he believed **that nations would stop wars if they had weapons that could destroy each other.** (東京経済大)

(しかし、彼は国家がお互いを破壊することのできる武器を持てば戦争をやめると信じていた。)

- **that nations stop wars and** …名詞節 (**believed** の目的語)
- **if they had weapons** …副詞節 (**stop** を修飾する)
- **that could destroy each other** …形容詞節 (**weapons** を修飾する)

B According to the author, many people think **that Nobel wanted Norwegians to choose the winner of the peace prize because Norwegians wished for stronger ties between Norway and Sweden.** (東京経済大)

(著者によれば、「ノルウェー人はノルウェーとスウェーデンとのより強い結びつきを願ったので、ノーベルはノルウェー人が平和賞の受賞者を選ぶことを望んだのだ。」と思っている人が多いのである。)

- **according to the author** …副詞句
- **that Nobel wanted Norwegians to choose the winner of the peace prize** …名詞節
- **to choose** …名詞句
- **of the peace prize** …形容詞句
- **because Norwegians wished for stronger ties between Norway and Sweden** …副詞節
- **for stronger ties** …名詞句
- **between Norway and Sweden** …形容詞句

2 文の種類

§ 1 文の種類と用法

★ 文の種類は次の5つ。

1 平叙文……肯定文と否定文がある。

She is a nurse. (彼女は看護師だ。)

He doesn't watch TV on Sunday. (彼は日曜日にはテレビを見ません。)

2 疑問文

一般疑問文

疑問詞がつかない疑問文。Yes, No で答えることができる。

Is he a teacher? (彼は先生ですか。)

Yes, he is. / No, he isn't. (はい, そうです。 / いいえ, 違います。)

特殊疑問文

◆疑問詞つきの疑問文で, Yes, No で答えられない。具体的に答える。

What is this flower? It is a lily. (この花は何ですか。ユリです。)

否定疑問文

◆答え方に気をつける。日本語につられて, Yes, I'm not. としないこと。

Aren't you hungry? (おなかすいていないのですか。)

Yes, I am. (はい, すいています。) / No, I'm not. (はい, すいていません。)

選択疑問文

Which do you like better, summer or winter? I like summer better.

(夏と冬とではどちらが好きですか。夏のほうが好きです。)

付加疑問文

◆文尾に肯定には否定の疑問形, 否定には肯定の疑問形を付け加える。相手に同意を求めたり, 念を押したりする言い方。

It's hot today, isn't it? (今日は暑いですね。)

Eri doesn't like carrots, does she? (絵里はにんじんが好きではないよね。)

Inspector, the murderer's blood type helped you solve this confusing crime, didn't you?

(警部, 殺人犯の血液型がこの犯罪を解決するのに役立ったんですね。)(センター試験)

We need more practice. So let's do it again, shall we? (東京経大)

(もっと練習が必要です。だからもう一度しましょう。)

間接疑問文

◆平叙文の語順をとる。

I don't know **when he will come back.** (彼がいつ戻ってくるかはわかりません。)

修辞疑問文

形は疑問文だが、内容は強い否定を表す。

Who loves war? = Nobody loves war.

(だれが戦争を好むだろうか? いや、だれも戦争を好まない。)

3 命令文

Let's ~. の文も命令文に含める。肯定命令文と否定命令文がある。

Don't smoke in a crowd. Coats are expensive.

(人ごみで吸ってはいけない。人のコートはだいたい高い。)

Let's play tennis. (テニスをしましょう。)

4 感嘆文

◆**How** で始まる感嘆文と **What** で始まる感嘆文とがある。

How fast that horse runs! (あの馬はなんて走るのが速いんだろう。)

What a beautiful lady she is! (なんて美しい女性なんだろう。)

5 祈願文

May God bless you! (神の祝福があらんことを。)

§ 2 疑問文

★ 疑問詞には次のようなものがある。

	主格	所有格	目的格	
疑問代名詞	who	whose	who(m)	人(だれ)
	which	—	which	人・物(どちら)
	what	—	what	物(何)

注 which, what には形容詞の働きもある。

疑問副詞	when	where	why	how
------	------	-------	-----	-----

注 新聞記事では **5W1H***が基本であるが、**5W**とは、**who** (だれが) **when** (いつ) **where** (どこで) **why** (なぜ) **what** (何を) で、**1H**とは**how** (どのように) である。これらの疑問詞で気をつける点をいくつかあげておく。

◆ **which** と **what** はその後に名詞、**how** はその後に形容詞・副詞を伴うことができる。

◆ what color 何色	◆ how old 年齢	◆ how often 回数
◆ what time 何時	◆ how far 距離	◆ how heavy 重さ
◆ how many 数	◆ how much 量	◆ how tall high 高さ
◆ how large 大きさ, 広さ	◆ how long 期間・長さ	

Where in Australia did you grow up? (センター試験)

(オーストラリアのどこで育ったのですか。)

How long will it take them to finish the work? (センター試験)

(彼らがその仕事を終えるのにどれくらい時間がかかりますか。)

Which season do you like the best? (どの季節が一番好きですか。)

注 * **5W1H**は推理小説でも大切で、岡嶋二人はそれをテーマにした「**5W1H**殺人事件」を書いた。ちなみに、「犯人はだれか」の謎ときものは「**フーダニット(Who done it?)**」とよばれ、「どのようにして犯行を成し遂げたのか」をテーマとした推理小説は「**ハウダニット(How done it?)**」とよばれる。犯行動機を重視したものは「**ホワイダニット(Why done it?)**」である。

§ 3 感嘆文

★ 感嘆文は、通常と **What** または **How** で始まり、感嘆符で終わる。日常会話では「主語 + 動詞」の部分を省略した表現が普通である。

◆ This flower is very beautiful.

very を how に変えて **How beautiful!** とし、その後に残った **this flower is** をつけて **How beautiful this flower is!** (なんてこの花は美しいんだろう。) とする。

◆ This is a very beautiful flower.

very を what に変えて **What a beautiful flower!** とし、その後に残った **this is** をつけて **What a beautiful flower this is!** (これはなんて美しい花なんだろう。) とする。

★ 次のような書き換えに注意。

- ① He is *a* very honest boy. What *an* honest boy he is!
- ② **How** well he plays the piano! = **What** a good pianist he is!

3 5文型

§ 1 自動詞と他動詞

★ 動詞は**自動詞**と**他動詞**に分けられる。日本語では、自動詞と他動詞は、「リンゴが落ちる」「リンゴを落とす」のように、「が」の後にくるのが自動詞、「を」の後にくるのが他動詞で区別できる。英語は**目的語なしで用いるのが自動詞**で、**目的語といっしょに用いるのが他動詞**である。

動詞が目的語や補語をとるかとらないかで、5つの文の型が決まる。これが**5文型**である。

文型	動詞の種類	目的語	補語	
I	完全自動詞	×	×	S + V
II	不完全自動詞	×		S + V + C
III	完全他動詞		×	S + V + O
IV	完全他動詞		×	S + V + O + O
V	不完全他動詞			S + V + O + C

(は目的語や補語をとる, ×はとらない)

§ 2 第1文型：S + V

★ **S+V**というと、短い文になりそうだが、実際は**M**(修飾語)がついて、結構長い文になっている場合が多い。デカルトの有名な「**cogito, ergo sum.**(我思う、故に我あり*)」の英語版は**I think, therefore I am.**であるが、ここで使われている**think, am**ともに**完全自動詞**で第1文型の文を作っている。

*NHK朝の連続テレビドラマ「純情きらり」の中に次のようなせりふがある。

斉藤先生：『我思う、故に我あり。』万物の存在を疑うことはできても、今はそのことに思いを巡らせている自分の存在は疑えないということです。だけどこの僕が今生きてなければ思想もへったくりもありません。『我あり、故に我思う。』が正しいんじゃないでしょうか。違うでしょうか。」

桜子：「どうでしょう」

斉藤先生：「あー、わからない」

1 There is[are] ...の構文

◆ **There is[are] ~.**の構文も**第1文型**である。**there**が主語の位置にきているが見せかけの主語で[†]、**there(M)+V+S**のような倒置の語順を取っている。したがって、**V**が**is**になるか**are**になるかは後にくる**S**が単数か複数かによる。

There are a lot of animals in the zoo. (動物園には動物がたくさんいる。)

〔注〕 特定のものにはこの構文は使えない。

〔誤〕 **There is his notebook** on the table.

→ **His notebook is** on the table.

2 Here is[are] ...の構文

◆ 次の **Here...**の文も、**S+V, V+S**の形をとっているので**第1文型**と考えてよい。
(magicianのセリフで) **Here is a rope.**[‡] (ここに一本のロープがあります。)

Here you are. (はい、どうぞ。)

Here we are. (さあ、着いたぞ。)

Here comes the bus. (バスが来たよ。)

3 It seems that...の構文

◆ **It seems that he is a doctor.**も**第1文型**と考える。**It**は**that**以下を導いているが、この構文では〔誤〕**That he is a doctor seems.**とすることはできない。

〔注〕 [†] 予備のthereと呼ばれる。

[‡] 疑問文はIs here a rope? ではなくIs there a rope here? になることに注意。

§ 3 第2文型：S + V + C

★ おなじみの **This is a pen.** や **My name is Taro Suzuki.** がこの文型の代表格。この文型で使われる動詞は**不完全自動詞**。完全でないのでそれを補うための語が必要である。それが**補語 (Complement)** である。**C** になれるのは**名詞と形容詞**およびその相当語句である。

1 第2文型をとる動詞

◆この文型で使われる動詞は次のように分類できる。

①状態「～である」を表す

◆ be ～である	◆ lie ～のままである[の状態にある]
◆ keep ずっと～のままである	◆ stay ～のままである
◆ sit (…の状態で)座っている	◆ remain いぜんとして～のままである

②状態の変化「～になる」を表す

◆ <u>医者になる</u> → become a doctor
◆ <u>暗くなる</u> → get dark
◆ <u>足りなくなる</u> (不足する) → run short
◆ <u>本当になる</u> (実現する) → come true
◆ <u>悪くなる</u> (腐る) → go wrong, go bad
◆ <u>黄色になる</u> → turn yellow
◆ <u>明らかになる</u> (=本当だとわかる) → turn out (to be) true

外見「～のように見える」を表す

◆ appear ～のように見える	◆ look ～に見える
◆ seem ～のように見える	◆ sound ～のように思われる

◆ 「～のように見える」は **look + 形容詞**, **look like + 名詞** になるので注意。

He **looks pale**. (彼は顔色が悪いように見える。)

It **looks like** a carpenter's toolbox, doesn't it? (センター試験)

(それは大工さんの工具箱のように見えますよね。)

“I need to write a research paper about the current economic growth in China.”

“It **sounds interesting**.” (東京経済大)

(「現在の中国の経済成長についての研究レポートを書かなければならないんだ。」

「それはおもしろそうだね。」)

感覚動詞「～とを感じる」

◆ feel ～のような感じがする	◆ smell ～のおいがる
◆ taste ～の味がする	◆ sound ～のように聞こえる

§ 4 第3文型：S + V + O

★ この文型の **V** は完全他動詞で、目的語を1つ取る。「…を～する」という日本語に訳されることが多い。5文型の中では比較的わかりやすい文型である。

O の位置にこられるのは、名詞・代名詞および名詞相当語句。名詞相当語句には、名詞句・名詞節があり、不定詞や間接疑問文などがくる。

He likes *music*. (彼は音楽が好きだ。)

I believe *him*. (私は彼を信じます。)

I want to buy an English-Japanese dictionary. (私は英和辞典を買いたい。)

I hope that it will be fine tomorrow. (明日晴れるといいと思う。)

1 日本語の「を」「に」に注意

◆ 目的語はいつも「…を～する」のように「を」を伴うものばかりとは限らない。

reach 「～に着く」や marry 「～と結婚する」などその代表的な例である。それぞれ **He reached Narita Airport.** / **He married her.** となり **at** や **with** は不要である。

このような動詞には次のようなものがある。

◆ climb	～に登る	◆ resemble	～に似ている
◆ attend	～に通う	◆ discuss	～について議論する
◆ approach	～に近づく	◆ obey	～に従う

⚠ climb at[to] resemble to discuss about approach to obey to はいずれも誤りである。

2 目的語に句や節がくるとき

◆ want は want + 目的語, want + to 不定詞の形はあるが, want + that 節はとれない。

think 「～と思う」 hope 「～だいいと思う」 want・wish 「～したいと思う」おまけに be sure 「きっと～だと思おう」 be afraid 「～ではないかと思おう」の6つの「思う」で後ろに目的語, 不定詞, that 節をとれるかどうかを確認してみると次のようになる。

「思う」動詞	目的語	不定詞	that 節
think	× (of が必要)	×	
hope, wish	× (for が必要)		
want			×
be sure	× (of が必要)		
be afraid	× (of が必要)		

このように動詞によって異なるので一つ一つ確認して用いなければならない。

§ 5 第4文型：S + V + O + O

★ 日本語の「～に…を～する」の形をとる。代表格の動詞は **give** なので、この文型に使われる完全他動詞は授与動詞と呼ばれる。

Will you tell me the way to the station? (駅へ行く道を教えてください。)

Pass me the salt, please. (塩を取ってください。)

この動詞の仲間、目的語の順を変えられるかどうか、変更する際に前置詞に **to**, **for** のいずれをとるか、で次のような3つのパターンに分けられる。

◆give 型	teach, tell, show, pass, promise, send, pay, sell, write など
◆buy 型	make, choose, cook, find, get, order, reach など
◆その他	ask // cost, envy, forgive など

1 第4文型 第3文型

「…を～に～する」と目的語の語順を変えたとき、日本語では、多少ニュアンスは変わるが、文法的には正しい文ができる。しかし、英語では2つの目的語のつながりとして、**to**, **for**, **of** のいずれかの前置詞が必要である。基本的には **to** で、一部の動詞は **for** をとり、**ask** のみ **of** をとる。したがって、**for** をとる動詞と **ask** の用例を覚えればよい。

I chose you this CD. (あなたのためにこのCDを選びました。)

→**I chose this CD for you.**

Can I ask you a favor? →**Can I ask a favor of you?** (お願いがあるのですが。)

㊦ **cost, envy, forgive** などは目的語の順序を変えることができない、つまり第4文型 → 第3文型の書き換えはできない。

2 第4文型をとらない動詞

★ 《AにBを～する》の日本語なら何でも第4文型で表せるわけではないこと。たとえば、「AさんにB氏を紹介する」は **introduce A B** とはならないで、第3文型の《**introduce B to A**》の形をとる。

㊦ **He introduced me Mr. White.** (彼は私にホワイトさんを紹介してくれた。)

→**He introduced Mr. White to me.**

◆このような動詞には次のようなものがある。

◆ say A to ☺ (☺にAと言う)	◆ complain to ☺ A (☺にAの文句を言う)
◆ suggest to ☺ A (☺にAと提案する)	◆ propose to ☺ A (☺にAと提案する)
◆ explain A to ☺ (☺にAと説明する)	◆ apologize to ☺ for A (☺にAを謝る)

Say hello to your parents. (ご両親によろしく。)

§ 6 第5文型：S + V + O + C

★ 5文型の中で一番やっかいなのがこの**第5文型**である。中学校では、《tell+目的語+to不定詞》《call+A+B》などと公式のようにして覚えていたが、実は全部この**第5文型**である。長文読解のとき**第5文型**に気づかずうまく訳せないでいるとき、そっとベートーベン **Beethoven** の第5（交響曲第5番「運命」）を流したくやりたくなるくらいだ。第5文型の理解が長文理解の運命の分かれ道といってもいいかもしれない。

この**第5文型**で大切なことは、**O**と**C**の間に**主語・述語の関係がある**ことである。

次の例では **me** と **help** の間に **I**（私は）**help**（手伝う）という **SV** の関係が成り立つ。したがって、「あなたは望みますか+私があなたを手伝うことを」→「あなたは私があなたを手伝うこと望みますか」→「あなたは私に手伝ってもらいたいですか」となる。

Do you **want me to help you** with your assignment?（宿題を手伝ってあげようか。）

1 第5文型をとる動詞

◆第5文型をとる動詞は、たとえば次のようなパターンに分けられる。

◆ make 型	make (～にする) keep (～にしておく) get (～にする) leave (～のままにしておく)
◆ call 型	call (～と呼ぶ) name (～と名づける) elect (～に選ぶ) choose (～に選ぶ) appoint (～に任命する)
◆ find 型	find (～とわかる) believe (～と思う) think (～と考える) consider (～とみなす)
◆ paint 型	Paint (塗る) wash (洗う) bake (焼く) cut (切る) dye (染める) color (着色する)
◆ hear 型	hear (～するのを聞く) see (～するのを見る) make (～させる) want (～してほしい)

He **made** *his son* a *sumo* wrestler.（彼は息子を力士にした。）

She **named** *her cat* *Tama* after the *Tama River*.
（彼女は自分の猫に多摩川にちなんでタマと名前をつけた。）

I **believe** *him* *innocent*.（私は彼が無実だと信じている。）

My father **painted** *the fence* *white*.（父は塀を白く塗った。）

I **heard** *my daughter* playing the piano.（私は娘がピアノを弾いているのを聞いた。）